

令和 6 年度 西東京市立 青嵐中学校 学校評価報告書

学校教育目標

社会人としての資質を養い、心身の調和のとれた人間に育てる。

- 1 豊かな創造性を育てる。(創造) 2 人を尊重し、物を大切にすることを養う。(貢献) 3 目的に向かって努力する意思を培う。(挑戦)

目指す学校像 (ビジョン)

【目指す学校像】 温かく活気あふれる学校

【目指す生徒像】 ①深く考えることのできる生徒 ②自他を尊重し共生の意識をもつことができる生徒 ③規則正しく生活し、心と体を健康に保つことができる生徒

【目指す教師像】 ①自分の専門性を発揮させるための通所研修等積極的な参加や教材開発 ②適切に学級経営ができる教員育成のOJT ③適切な報告、連絡、相談ができる教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・授業改善推進拠点校として3年間充実した校内研修を重ね、教員の授業力向上や意識の変化、主体的に意見を話し合える生徒の学力向上に一定の成果が見られた。
- ・生徒の変容を見取り、教職員同士の情報交換や共有を図り、生活指導の組織的な連携を確実に図っていくことが課題である。

	具体的方策	第1回評価	課題と対策	第2回評価	学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
確かな学力の向上	①活用力を高めるために、「教えて考えさせる授業」を推進し、全教員による研究実践を行う。 ②基礎学力や学ぶ意欲を高めるために、放課後補習体制を拡充する。	3	生徒からは「教えて考えさせる授業」を肯定的にとらえているが、教員側は指導に対して十分に満足した授業を展開できていないと感じている。授業の指導方法に工夫が必要であり、保護者にも理解を得られるような授業を展開していく必要がある。	3	教員がそれぞれ課題を感じている点、次年度につながる可能性も大きく、評価を行った価値があるといえる。確かな学力の向上のため、先生方は学ぶ意欲を高めようと努力されており、その意図は生徒に伝わっている。「OK」は少しずつ浸透しているように感じた。タブレット端末の活用を増やしてほしい。	保護者の方に、学校の教育内容や指導方法等についてよくわかるようにしていく必要がある。学習で分からない部分を補習学習や長期休業中など機会を増やし、取り組んでいく。学習における指導方法の工夫が必要である。
	①授業や家庭学習でタブレット端末を使用し、eライブラリの活用を通して、学ぶ意欲や学習習慣の確立を図る。	4	タブレット端末を活用した授業を展開しているが、まだまだ保護者への理解は浸透していない。もっと活用方法を考えて公開授業等でタブレット端末を活用した授業を展開していく必要を感じる。eライブラリも活用している授業が増えてきている。	4	タブレット端末を活用した授業を学校公開等で展開し、保護者の方にも見てもらうことが大事である。定期考査前だけでなく、朝読書時間を朝学習に変えて、eライブラリの活用をさらに増やしていくことも検討していく必要がある。	
豊かな心の育成(いじめ防止)	①学年の教員がローテーションで授業を担当し、自他の理解と尊重のための授業実践を行う。 ②年5回の面談・アンケートを実施し、生徒の心に寄り添う指導を行う。	4	道徳のローテーションをすることで、担任だけが一つのクラスに留まらずに副担任も含め学年全体で授業を展開し、全体を把握できるようにしている。アンケートを実施し、結果をすぐに聞き取りし、早急な対応を図り、生徒に寄り添う指導を行っている。	4	学校全体での「いじめ」に対する取組は評価できる。豊かな心の育成は中学生になると心と体の成長とともに難しくなったり、LINE等のツールで大人が気付きにくい問題等もある。子どもたちが悩んでいる事を話せるように親や先生方が環境を作っていくことが必要。	引き続きローテーションで道徳の授業を行っていくことで、学級に留まらず、学年全体で豊かな心の育成を図っていくことができるので継続指導を行っていく。アンケート結果をもとに聞き取りや心に寄り添った指導を行うことはもちろんのこと、それ以外でアンテナを高くしていく。
	①いじめのない学校を目指し、生徒主体の活動を推進するとともに、教員の研修を行う。	3	年度当初に「学校いじめ防止基本方針」の見直しを図るとともに、教員の研修を行った。研修を行うことで、いじめに対するアンテナを高く張るとともに早期に対応できるように心がけている。いじめアンケートで、生徒の状況を早く察知することが大事。	3	生活指導部会、相談部会等、毎週生徒の情報を共有し、全校体制で指導の充実を図る。いじめに関することは、些細なことでもアンテナを高くし、今後も複数で対応し、早期発見早期解決を心がける。	
健やかな体の育成	①各行事において生徒主体の行事運営を目指し、生徒を積極的に関わらせる。 ②生徒の目標達成に向けての支援、助言を通してやりぬく力の育成を図る。	4	運動会では昨年同様学校全体で実施することができた。生徒主体で行事を進められたことで、先輩から後輩に引き継げるような機会があり、生徒主体で委員会活動を活性化し行事の運営ができた。このような機会を増やすような取り組みを行っていく。	4	健やかな体の育成は行事等において体を動かし、中学校時代は大きく成長する時期なので、授業以外の場でも多くの体験を生徒に取り組ませたい。今後の継続を望む。	体育の授業で健やかな体の育成を図るとともに、体づくり運動に励む必要がある。運動会における行事においては体力向上を図っていく。近年、暑さが厳しく熱中症対策を考慮しながらの運営になるので、企画においても工夫や配慮が必要となる。
	①部活動の参加を推進し、心身ともに健やかな成長を図るとともに、指導者・生徒・保護者一丸となった部活動の運営を行う。	4	体育健康教育の一環として部活動に取り組んでいる。文化部においても運動だけでなく心身ともに健やかな成長を図れるような指導の実践を図り充実した取組を図れた。保護者の協力も不可欠であり、引き続き運営を行っていく。	4	部活動においては引き続き心身ともに健やかな成長を図れるよう指導の充実を図る。年度当初における部活動説明会で保護者の方々に基本方針を伝え、了承を得るとともに、協力体制で一丸となって指導にあたっていく。	
特色ある教育活動	①総合的な学習の時間の核として、「西東京ふるさと探求学習」に取り組み、地域人材を活用することで、地域理解を深めさせる。 ②地域行事の積極的な参加を推進する。	3	1年生の校外学習で「西東京市ふるさと探求学習」を実施し、地域理解に努めた。CSでの地域人材を活用した取組も増え、部活動のコラボレーションを図った。地域住民とも連携を図れていけるような取組を今後も実施していく。	3	校外学習等で西東京市内や東京を探索するなど、青嵐中がどのような特色ある教育活動を行うか、広く地域にも目を向けてこれから進展されていくのを見守りたい。地域人材を取り入れて子どもたちと共に育てる「学校」が今後の姿になっていくと良いと思う。	「西東京市ふるさと探求学習」は1年生の校外学習で実施し、地域理解に努め、地元の大切さを学ぶ良い機会としている。CSとの関連で地域の催し物などに参加し、地域住民とも連携が図れた。今後も連携した取組や宿泊行事において体験活動を増やし、社会に開かれた教育課程を目指す。
	①特別な配慮が必要な生徒の支援や合理的配慮、交流活動を通して、共生の意識を育てる。	3	特別支援教室(サポート教室)の充実。合理的配慮が必要な生徒に対しての指導の仕方に工夫が必要であり、インクルーシブ教育の実践を行っていく事大切を図っていく。授業においてや、生活指導における指導の仕方に配慮が必要である。	3	インクルーシブ教育の実践を図り、個々に合った指導方法や一人一人を大切に教育を実践していく必要がある。「合理的配慮が必要な生徒」の研修を実施し、指導方法を全校体制で向上させていく。	
業務改善・働き方改革	①教職員の週あたりの在校時間が60時間を超えないようにする。	3	勤務時間外での学校の事務処理時間を短縮するための「働き方改革」で朝の打ち合わせをPC上で掲示板を活用した。教員の残務仕事が多く、大幅に増えている教員がいるのも明らかではある。	3	先生の時間外勤務を少なくすることは、最重要課題の一つだと思う。事務処理以外にも生徒や親への対応など、教育現場は思わぬ時間を取ることも多いと思う。教職員の皆さんの健康を祈っています。	定時退勤日を設けるなど「働き方改革」を推進できる環境を作るとともに教員も心がける必要がある。心と体のリフレッシュがあることで最高のパフォーマンスができる。心にゆとりをもって勤務に臨む。
	①SSSやデジタル採点を活用し、業務の効率化を図る。 ②ライフワークバランスについて、自己申告書に具体的目標を示させて取り組む。	3	教員のサポートにおいて、印刷物や職務のできる範囲でSSSを活用し、業務の効率化を図っている。月2回程度のICT支援員の活用は、教員の仕事を軽減させている。自己申告書においてライフワークバランスに取り組めるよう努めている。	3	各々ライフワークバランスを取り組むよう心掛けている。教員のサポートとしてSSSやICT支援員、生活支援委員など活用し業務の軽減を図っている。CSや地域人材を活用し、子どもたちを地域と共に育てる「学校」を目指していく。	